

## かおかおどんなかお

柳原良平 作・絵



こぐま社 1988年 800円

目がふたつ、鼻がひとつ、口がひとつある「かお」。その組み合わせと顔の輪郭の形の違いで、様々な表情の顔ができあがります。「たのしいかお」「かなしいかお」「おこったかお」「あまーいかお」…次々といろいろな顔があらわれます。簡潔な線の絵は、ユーモラスで、表情によって背景と顔の色もかわっていきます。

## がたんごとんがたんごとん

安西水丸 作



福音館書店 1987年 700円

がたんごとん、がたんごとんと電車が進むと、ほ乳びんが立っていました。電車はほ乳びんを乗せ、カップとスプーンを乗せ、りんごとバナナも乗せました。どンドン進んでいって、やがて電車がたどり着いた先は？「がたんごとん がたんごとん」「のせてくださいーい」というリズムカルな言葉のくり返しで構成された短い絵本です。単純明快なデザインの絵は、あたたかみがあり、幼い子に喜ばれます。

## かばくん

岸田衿子 作

中谷千代子 絵



福音館書店 1966年 743円

「どうぶつえんに あさが きた いちばん はやおきは だーれ いちばん ねぼすけは だーれ」というリズムカルで美しい言葉ではじまる動物園のかばの1日を描いた絵本です。かばとかめ、かめとあぶくのように、大きなものと小さなものの対比の楽しさや、かばくんのダイナミックな食事の様子が、淡い美しい色彩で描かれています。